

「中之島 4 丁目再生医療国際拠点」基本方針（素案）

現状と課題

- ✓ 再生医療関係の法整備により、**日本が世界をリードする環境**
- ✓ 理研・京大・阪大といった**世界的な研究機関が先端的な研究を展開**
- ✓ 一方で、**国際競争に勝ち抜くため、研究段階から実用化・産業化への実現をより加速すること**が大きな課題
- ✓ また、臨床研究にあたってアカデミアには様々な制約があり、海外からのグローバルな需要に対応できない。再生医療分野における国際貢献を果たすには、国内外の患者を適切な病院に振り分けるハブ機能を備えた**オールジャパンの拠点を設けることが必要不可欠**

<コンセプト>

「再生医療のヒトへの応用から実用化、グローバル展開まで一貫して産業化を推進する拠点」

- ①再生医療のヒトへの応用の実現
- ②産業化を推進
- ③再生医療による国際貢献の実現

⇒世界に類のない再生医療の国際拠点を形成

中之島に拠点を設置する意義

- **行政・経済の中核機能や文化・学術施設が高度に集積**する良好な都市環境を有するエリア
 - **交通アクセスが発達**しており、さらに、なにわ筋線の整備構想が実現すれば、空港へのアクセス向上が期待できる
 - 関西のイノベーションのハブ機能を担う、「うめきた」と近接し、連携がしやすいエリア
- ⇒関西をはじめ国内外の研究機関・拠点との連携がしやすく、参画する企業等呼び込みやすい**

拠点到備えるべき機能

- 再生医療国際拠点は、核となる「再生医療国際センター（仮称）」と関連する機能により構成

1. 再生医療国際センター

臨床研究専用病床	・臨床研究専用病床【50～100床程度】 ・患者を最適な病院に振り分けるハブ機能	データ集積、管理、解析	・再生医療のデータ解析により、細胞移植の安全性、有効性等の情報を集積（企業にも提供）
レギュラトリーサイエンス	・安全性、有効性の評価の標準・基準づくり	人材育成	・アカデミアと企業が集まって、再生医療に必要な人材を育成（特にOJT）
細胞バンク	・再生医療の原材料であるiPS細胞等をストック	社学連携（共創）	・企業のみならず、市民、患者等と交流・協働
産学連携（共創）	・企業との共同研究を行うラボ	⇒臨床研究から実用化・産業化までを一貫して進める世界に開かれた国際的な拠点	

2. 関連する機能 *以下、例示

※再生医療国際センターとの連携を重視



実施運営体制

- ハード（建物全体）とソフト（再生医療国際センター（仮称））の運営は分ける。
- ハードの設置・運営は、例えば、民間デベロッパー等を中心としたSPCなどを想定。
- ソフトの運営は、再生医療国際センター（仮称）を担う運営法人を想定。 ※法人形態は要検討
- センターのうち、臨床研究専用病床などの病院機能は運営法人が医療法人等と連携し、設置・運営することを想定。

施設イメージ

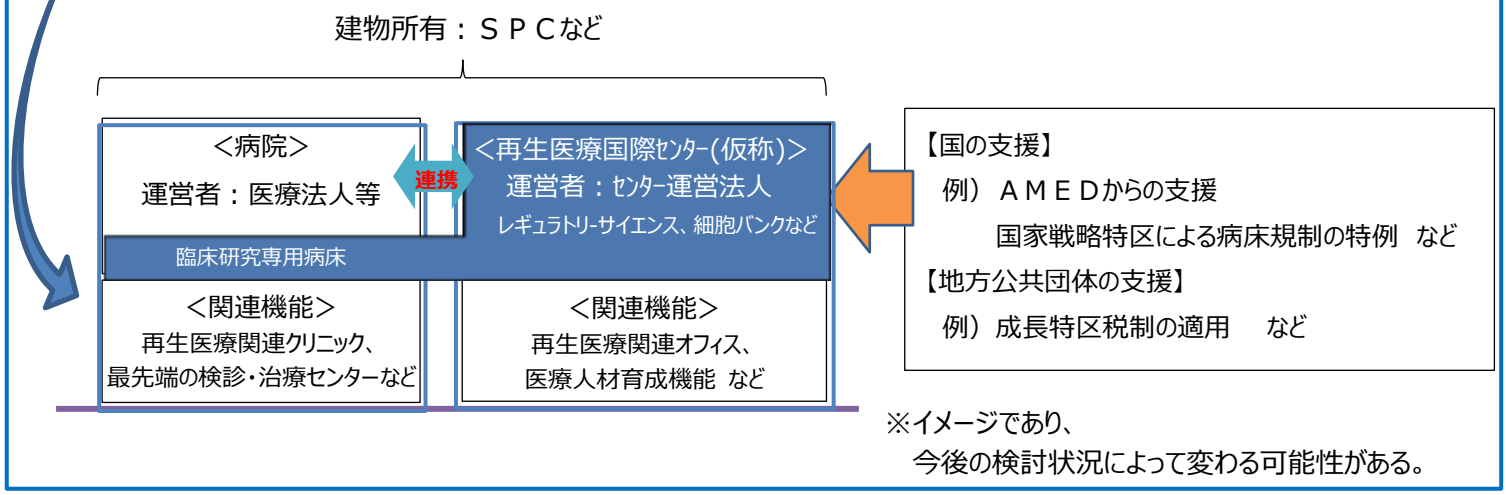


社学共創・産学共創・アート拠点
約4,500㎡

再生医療国際拠点候補地
約7,500㎡

合計 約12,000㎡（大阪市有地）

※隣接する民間所有地については、国内外からの研究者・企業等関係者向けの滞在施設や利便施設など、市有地と一体となった開発への協力を求めている



スケジュール

※想定であり、今後の検討状況によって変わる可能性がある。

